

科名 消化器内科

消化37

対象疾患名 切除不能進行・再発胃がん

プロトコール名 DCS【消化器科北村医師限定】

Rp	形態	ルート	薬品名	投与量	時間・コメント	1	2	3	4	5	9	10	15	29
1	点滴注	メイン	ソルデム3A	500mL	80mL/h キープ	↓								
2	点滴注	メイン	ソルデム3A	500mL	80mL/h キープ	↓								
3	点滴注	メイン	ソルデム3A	500mL	80mL/h キープ	↓								
4	点滴注	メイン	ソルデム3A	500mL	80mL/h キープ	↓								
5	点滴注	メイン	ソルデム3A or 5%G 10%塩化ナトリウム	500mL 500mL 20mL	9:00~10:00	↓								
6	点滴注	メイン	ソルデム3A or 5%G 10%塩化ナトリウム	500mL 500mL 20mL	10:00~11:00	↓								
7	点滴注	メイン	ソルデム3A or 5%G 10%塩化ナトリウム	500mL 500mL 20mL	11:00~12:00	↓								
8	点滴注	メイン	生食	250mL	12:00~16:30 ルートキープ破棄可	↓								
9	点滴注	側管	プロイメンド 生食	150mg 100mL	12:00~12:30	↓								
10	点滴注	側管	アロキシバッグ注 デキサート	0.75mg 9.9mg	12:30~13:00	↓								
11	点滴注	側管	ネオレスタール 生食	10mg 50mL	13:00~13:30	↓								
12	点滴注	側管	ドセタキセル 生食	40mg/m ² 250mL	13:30~14:30 壊死性抗がん剤	↓								
13	静注	側管	ラシックス 又は	20mg	タキソテール終了後iv	↓								
14	点滴注	側管	マンニトールS	300mL	14:30~16:30									
15	点滴注	側管	シスプラチン 生理食塩液	60mg/m ² 500mL	14:30~16:30	↓								
16	点滴注	メイン	ソルデム3A or 5%G 10%塩化ナトリウム	500mL 500mL 20mL	16:30~17:30	↓								
17	点滴注	メイン	ソルデム3A or 5%G 10%塩化ナトリウム	500mL 500mL 20mL	17:30~18:30	↓								
18	点滴注	メイン	ソルデム3A or 5%G 10%塩化ナトリウム	500mL 500mL 20mL	18:30~19:30	↓								
19	点滴注	メイン	ソルデム3A or 5%G 10%塩化ナトリウム	500mL 500mL 20mL	19:30~20:30	↓								
20	点滴注	メイン	ソルデム3A	500mL	20:30~24:00	↓								
21	点滴注	メイン	ソルデム3A	500mL	0:00~6:00	↓								
22	点滴注	メイン	ソルデム3A	500mL	6:00~10:00残破棄	↓								
23	静注	側管	ラシックス	20mg	10:00	↓								
24	点滴注	側管	デキサート 生食	3.3mg 50mL	ラシックス投与後30分かけて	↓								
25	点滴注	メイン	ソルデム3A	500mL	10:00~80mL/h	↓								
26	点滴注	メイン	ソルデム3A	500mL	80mL/h	↓ ↓								
27	点滴注	メイン	ソルデム3A	500mL	80mL/h	↓ ↓								
28	点滴注	メイン	ソルデム3A	500mL	80mL/h	↓ ↓								
29	点滴注	側管	デキサート 生食	6.6mg 50mL	10:00~30分かけて	↓ ↓								
	経口		S-1	80mg/m ²		↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓								

★1クール=22~29日(day1はハイドレーション)

~MEMO~

催吐レベル4(90%以上)

<S-1>

S-1は14日間内服し、その後1~2週間休薬する。

S-1は1日2回内服、1回の投与量

体表面積(BSA)<1.25m²は40mg/回1.25m²≤BSA<1.5m²は50mg/回BSA≥1.5m²は60mg/回

<ドセタキセル>

調製時、完全に溶解、混和したことが確認できるまで緩やかに混和操作を繰り返す。

アレルギー好発時期:初回、2回目

投与開始から10分間はベッドサイドを離れない

Cancer Chemother Pharmacol (2012) 69:407-415 (doi:10.1007/s00060-011-1660-1)

薬剤の特徴により1mL=20滴とならないため滴下数を1.5倍にする。

(1hrで滴下する場合126滴/分)